

研究課題

COPD 患者の食行動や栄養状態の実態調査、栄養指導を通じた検討

1.研究の対象

当病棟に入院中、または入院歴のある COPD 患者でかつ本研究の趣旨や方法を書面および口頭で説明し同意を得られた方。

2.研究目的・方法・研究機関

慢性閉塞性肺疾患（以降 COPD）の有病率や死亡率は世界的に高いレベルにあり、今後とも人口の高齢化や高喫煙率の国々のために世界の患者数が増加すると予測されています。2019 年の WHO の調査では、COPD は死因の第 3 位に位置づけられ、DALY の損失原因の第 7 位。COPD 患者はエネルギーの消費量増加とエネルギー摂取量低下によるエネルギーインバランスにより体重減少を認めることが多く、COPD 患者の栄養障害は比較的高頻度で発生しています。体重減少のある患者が体重減少のない患者に比べ、有意に生存率が低くなることが先行研究で明らかになっています。また体重が少なく、血清中の蛋白、アルブミンが低いようなタンパク質-カロリー摂取不良の COPD の患者はそうでない患者に比べて呼吸不全になりやすいことも指摘されています。一方、体重減少のある COPD の患者で栄養状態を改善させると呼吸機能も改善した報告もあるため、COPD の治療、管理では栄養指導が重要な役割を果たすことが期待されています。また、先行研究では、食行動を見直し望ましい食行動を習得するためには、栄養状態だけでなく身体・心理・社会的状態を包括的にアセスメントできる看護師の介入が必要であるということも明らかになっています。当病棟を対象に実施された先行研究では、COPD 患者の食事に関する自己管理能力を阻む要因の一つとして、栄養指導不足が挙げられました。現状として COPD 患者に栄養指導は十分に行われておらず、患者が自身の低栄養リスクや食事の重要性をどの程度認識しているか、栄養指導によって行動変化や栄養状態改善が得られるのかについても明らかではありません。本研究では、COPD 患者が食行動に対してどの程度関心を持っているのか、食行動の現状を明らかにし、入院中の栄養指導によって退院前後での食行動や栄養状態がどのように変化するのか明らかにするものです。COPD を主とした疾患で入院される患者を対象に、本研究の趣旨や方法を書面および口頭で説明し同意を得た後、食事についてのインタビュー、栄養指導を行います。また、退院後の初回外来時に、再度食事についてのインタビューを実施します。

3.研究に用いる試料・情報の種類

診療情報（カルテ）から、年齢、性別、既往、同居家族、入院中の食事摂取量、身長、体重、血液データ（Alb、総蛋白）、MUST、GLIM、肺機能、酸素使用の有無の情報等の情報を収集します。

4.個人情報の取り扱いについて

本研究が正しく行われているかどうかを確かめるために、本研究の関係者が、当機関にある本研究に参加されている患者さんのカルテ情報などを含めた本研究に関連したデータを直接閲覧する場合があります。その場合でも、本研究の関係者には守秘義務が課せられていますので、患者さんの個人情報が外部に漏らされることはございません。

5.研究組織

1 研究責任者

神鋼記念病院 5 階西病棟・新谷 祐依菜

2 研究分担者

神鋼記念病院 5 階西病棟・中村 朱里

神鋼記念病院 5 階西病棟・赤枝 愛莉香

6.問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し付けください。

また試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合は研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究分担者：神鋼記念病院 5 階西病棟・新谷 祐依菜、中村 朱里、赤枝 愛莉香

住所：〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町 1-4-47

電話番号：078-261-6711 5 階西病棟 (5050)